

# 第5次総合計画基本構想改定案修正、賛成17人に

## 「子育て支援に逆行」通園バス分担金条例、反対が13人

12月定例議会は13日、上程された議案などについて委員長報告を受けた後、討論、採決を行い、閉幕しました。注目された第5次総合計画基本構想改定案については、市民クラブ、市政会議、日本共産党議員団が共同して修正案を提出し、光友クラブも修正に賛成しました。請願はいずれも市民の暮らしと営業を守る上で重要なものばかりでしたが、賛成少数で不採択となっていました。以下は、日本共産党議員団の討論の一部です。



議案第266号上越市第5次総合計画基本構想の改定について、修正案に賛成し、原案に反対する立場で討論します。

原案に反対する理由は2つです。1つは、総務委員会での議論を尽くさないで

し、これまでの市民会議や総合計画審議会の皆さんのご努力も形になって表すことができたと思っています。

議案第257号上越市立保育園通園バス運行分担金徴収条例の制定について反対の立場で討論します。

反対理由のひとつは、子育て支援に逆行するからであります。杉本議員の総括質疑に対する答弁では、市は「次世代育成支援のための上越市行動計画」に沿って様々な子育て支援施策を推進しており、限られた財源の中で子ども医療費助成事業や保育料の軽減など、子育て家庭の経済的負担の軽減には最大限努めている。このような中、通園バス運行事業についても、利用者となる子育て世代に十分配慮した負担額と言われました。しかし、本当に「子育て世代に十分配慮したものであった」でしょうか。アンケートでの意見欄は反対の声が圧倒的でした。説明会での発言を聞いても、重い負担への疑問があがっていました。

反対理由の2つ目は、アンケートが新制度の良し悪しについて関係者の声を正確に把握するものにならなかったこと。アンケートの設問では、回答者の意向に影響を与えるような文言は入れてはいけません。行政側の考えに近いものを引き出すという意識を持って設問を作ってはいけません。「新制度に賛成、反対、わからない」でアンケートをとるべきでした。

（写真は党議員団を代表して討論する橋爪議員です。この他、請願関係では樋口議員が討論に立ちました）

見切り発車したことです。11月12日の委員会は私も傍聴しましたが、将来都市像をめぐっての議論は意見の一致をみませんでした。それで委員長は、議会に提案されるまで継続審議としますとのべ、閉会となったのであります。その時、これは12月議会での提案は無理だな、早くても1月の臨時会だろうと思っただけです。ところが12月議会に提案され、私はびっくりしました。いうまでもなく、総合計画は市の最上位計画です。議会では全会一致で可決されるように最大限の努力をするべきだったと思います。

原案に反対する理由、いまひとつは、原案にかかげられた将来都市像「海に山に大地に学びと出会いが織りなす共生・創造都市上越」をより押しすることが14市町村合併での共生の思いを断ち切ることにつながりかねない懸念するからです。

修正案で示しました将来都市像は、新市建設計画での将来都市像「海に山に大地になりわいと文化あふれる共生都市上越」をメインにすえながら、サブタイトルで「学びと出会いが織りなす創造の力を糧として」を使用

# 12月議会における主な議案、請願に対する各党・会派の賛否状況

（○は賛成、×は反対、△は賛成と反対の両方に割れた）  
 ※通園バス分担金条例については、創風クラブ所属議員のうち、内山米六議員が反対、他の議員は賛成でした。

	子どもの医療費無料制度の創設を求める請願	米価の安定対策を求める請願	後期高齢者医療制度の中止撤回を求める請願	通園バス運行分担金徴収条例	第5次総合計画基本構想改定案（原案）	第5次総合計画基本構想改定案（修正案）
毘風	×	×	×	○	○	×
市民ク	○	○	○	×	×	○
政新	×	×	×	○	○	×
創風ク	×	×	×	△	○	×
市政会議	×	×	×	○	×	○
共産党	○	○	○	×	×	○
公明党	×	×	×	○	○	×
自民ク	×	×	×	○	○	×
光友ク	×	×	×	○	○	○
無所属	×	×	×	○	○	×

**日本共産党上越市議員団ニュース**

No. 121 2007年12月23日

連絡先 杉本敏宏 524-3787 (東本町5)  
 樋口良子 544-6802 (中門前3)  
 橋爪法一 548-3628 (吉川区代石)  
 事務局長 上野公悦 530-2203 (頸城区中柳町)

橋爪市議も執筆している『山村集落再生の可能性』（自治体研究社）が16日の新潟日報読書欄で紹介されました。本は春陽館、柿村書店、戸田書店にあります。